



10年先を見据えて

Vol. 1

農業所得の向上へ、難しい課題が多い時だからこそ、10年先を見据えて新たな挑戦を始める担い手がいる。その夢やプランの実現をTACが支援し、未来と一緒に切り拓く活動が広がってきた。園芸振興や農業法人の育成に奮闘する2JAの取り組みをレポートする。

TACの活動内容は
こちらから



TAC(タック)とは、『地域農業の担い手に向くJA担当者』の愛称です。

☒ 秋田県 JA秋田ふるさと

☐ 福岡県 JAふくおか八女



▼佐藤孝弘さん(左)や佐藤忠さん(左から2人目)、佐藤頌也さん(右)とハウレンソウの生育について話すTACの三澤さん(右から2人目)①

▼農事組合法人メガファームの組合員ら(左端、代表理事・佐藤儀右衛門さん)②

▼雪で覆われた田んぼに、真新しいパイプハウスが並ぶ③

メガ団地で、担い手育成と園芸振興

秋田県横手市。2016年2月、雪で覆われた田んぼの一角には、真新しいパイプハウスが並んでいた。同市十文字地区の農家6人が農事組合法人メガファーム(代表理事・佐藤儀右衛門さん)を設立。JA秋田ふるさとと連携し、8%にもなる大規模な園芸団地の運営に乗り出した。10年先を見据えて米に依存する農業から脱却、園芸に活路を見出そうとする担い手を、TACが支援している。

園芸団地は県・市の補助を受け、JAが事業実施主体となって整備。77棟のパイプハウスや5棟の作業棟の他、農業機械・器具なども取得し、メガファームに貸し出す形で育成を図る。栽培は露地も含め、菊・小菊が2%、キュウリ3%、ハウレンソウ2%、スイカ1%。ハウレンソウは新規だが、それ以外は参加農家が栽培してきた品目を規模拡大した。

「このままではこの地域に農業後継者がいなくなる。農業で自立できる担い手を育てたかった」と、メガファーム監事の佐藤忠さんは話す。十文字地区では農事組合法人「越前」が米・大豆の栽培を引き受け、地域の農地を守っている。しかし専業でしっかり収益を上げるには、園芸を主体とした経営が必要と判断。15年5月にメガファームを設立し、園芸団地の運営に手を挙げた。

FAST(ファスト)の名で活動するTACも、メガファームを支援。特に8月に初出荷したハウレンソウでは、種まきから収穫までの栽培管理や市況などの情報提供、先輩農家への視察にも同行し出荷作業の指導を仰いだ。「今後も定期的に巡回し、担い手の夢が実現するよう全力でサポートしたい」とTACの三澤孝行さんは話す。

1組織1品目 複合経営のモデルに

15年度は、露地を中心に4割程度の作付けだったが、ハウスが全て完成し、16年度は当初計画通り8%になる予定。最盛期の夏には1日50~60人の雇用が必要にな

る見込みで、「人手の確保が最大の課題」とメガファーム理事の佐藤孝弘さん。それでも「米や大豆で農地を管理し、花や野菜など園芸で収益を上げる農業を目指したい」と意気込む。

JAも管内の農業法人や集落営農組織に、園芸作物に取り組んでもらうため、「一組織一品目作付け運動」を推進している。今後、第2、第3の園芸団地を作り、秋田米と合わせて全国に誇れる複合産地を目指すという。そのためにも、栽培技術や出荷体制の確立、労働力確保などでメガファームを支援し、地域の新たな経営モデルとして考えた。



TACの役割

- ①地域農業の担い手に訪問してご意見・ご要望をうかがい、誠実にお応えします。
- ②地域農業の担い手の経営に役立つ各種情報をお届けします。
- ③地域農業の担い手のご意見を持ち帰り、JAグループの業務改善につなげます。

TACの由来

Team for Agricultural Coordination
JAグループが一体となって地域農業をコーディネートします。

Tとことん、**A**会って、**C**コミュニケーション!!

営農販売企画部 TAC推進課
TEL: 03-6271-8276

全農